

## 5月9日は「アイスクリームの日」 アイスクリーム白書2006

### アイスクリームは楽しさを演出してくれる 「絆をつなぐ・デザート」

— 団塊世代にとってアイスクリームは、特別な存在! —

今回の調査で浮き彫りにされたのは、アイスクリームが持っている、「絆をつなぐ・デザート」としての価値です。

団塊世代、団塊Jr世代の人たちから聞こえてくる、いかにも「絆をつなぐ・デザート」らしい思い出の数々は、自由回答の欄にも詳細に書き込まれていました。そこには、両親、友人、恋人との交感があり、喜び、楽しみがあり、時として切ない想いもありました。

アイスクリームは、まさに人と人のつながりを豊かにさせる力のある存在となっているのです。

1.調査設計 .....	1P
2.調査結果の要約 .....	2P
3.調査①結果(意識調査)	
◆アイスクリームの人気が再浮上 .....	3P
◆バニラは不動の人気ナンバー1のフレーバー .....	4P
4.調査②結果(団塊世代&団塊Jr世代意識調査)	
◆初めてのアイスクリームは、家族との楽しく、おいしかった思い出 .....	5P
◆親子の愛情をつなぐアイスクリーム .....	6P
◆アイスクリームに深く、強い思いを抱く団塊世代男性 .....	7P
5.日本アイスクリーム協会概要 .....	8P
6.アイスクリーム類及び氷菓の販売物量・金額.....	9P

社団法人日本アイスクリーム協会では、1997年より幅広い生活者を対象に、アイスクリームに関する意識調査を実施し、調査結果を「アイスクリーム白書」としてまとめ、毎年発表しております。本年は、アイスクリームを最近1年以内に購入して食べた人を対象に、どのような気持ちでどんなときにアイスクリームを食べているのか、日常のアイスクリームの楽しみ方に関する意識や実態を調査しました。

合わせて、特に今年は団塊世代と団塊Jr世代に着目。「2007年問題」を控え何かと注目されている団塊世代と、その子供にあたる団塊Jr世代のアイスクリームに対する意識の差を探ってみました。

## <調査①>

### ■調査項目(意識調査)

- ・アイスクリームの食用状況・変化
- ・アイスクリームのフレーバー嗜好

### ■調査方法

- ・調査地域 首都圏
- ・調査対象者 高校生～59歳までの生活者で  
市販のアイスクリームを最近1年以内に購入し、食べた人  
男性:180人/女性:180人

- 調査方法 インターネット調査

## <調査②>

### ◆調査項目(団塊世代&団塊Jr世代意識調査)

- ・初めてのアイスクリーム体験
- ・アイスクリームをめぐる父母との思い出
- \*自由記入から抜粋・団塊世代男性の、アイスクリームにまつわる思い出

### ◆調査方法

- ・調査地域 全国
- ・調査対象者 団塊世代&団塊Jr世代で  
市販のアイスクリームを最近1年以内に購入し、食べた人  
男性:100人/女性:100人  
\*団塊世代:昭和22年(1947)～24年(1949)生まれとした  
団塊Jr.世代:昭和46年(1971)～49年(1974)生まれとした

- ◆調査方法 インターネット調査

※調査期間 2006年3月10日(金)～3月14日(火)

※99年、04年調査データは参考比較  
(99年、04年は対象者が小学生以上  
&20代以上は既婚者のみ等であるため)

## <調査①意識調査>

### アイスクリームの食用状況・変化

#### ■アイスクリーム人気再浮上

・アイスクリームの摂食頻度と、アイスクリームを食べる機会の変化(増減)について調べました。そして、それらを99年、04年と時系列で比較してみました。(表1)

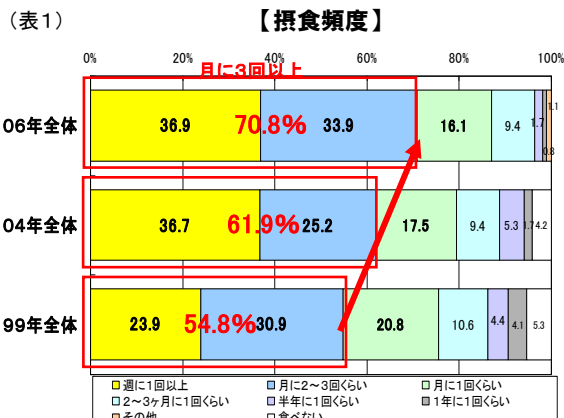
⇒アイスクリームの摂食頻度は着実に増加しています。食用頻度も「増えた」という人が増加。特に20代女性の「アイスクリーム好き」が増えています。(3P/表9)  
「増えた」理由のトップは、「おいしいアイスクリームが増えた」ことにあります。(3P/表10)

### アイスクリームのフレーバー嗜好

#### ■バニラは不動の人気ナンバー1のフレーバー

・好きなアイスクリームのフレーバーについて聞きました。そして、それらをを99年、04年と時系列で比較してみました。(表2)

⇒上位4フレーバーは不動。バニラは継続してナンバー1の座にあります。今回の調査の性・世代別では、「キャラメル」「抹茶」が女性に、「あずき」が50代に人気となっています。(4P/表12・13)



※99年、04年は「食べない」という選択肢があり

(表2) 【人気BEST5】

	06年	(%)	04年	(%)	99年	(%)
1位	バニラ	80.3	バニラ	71.4	バニラ	67.7
2位	チョコレート	63.1	チョコレート	37.0	チョコレート	42.6
3位	抹茶	49.2	抹茶	34.9	抹茶	31.6
4位	ストロベリー	41.1	ストロベリー	27.1	ストロベリー	28.2
5位	ミルク	39.4	あずき	22.3	あずき	18.9

※99年は「ミルク」の選択肢なし

## <調査②団塊世代&団塊Jr世代意識調査>

### 初めてのアイスクリーム体験

#### ■団塊世代、団塊Jr世代ともに、初めてのアイスクリームは、家族との楽しく、おいしかった思い出

・初めてアイスクリームを食べた時のことについて、自由記入式で回答してもらいました。

⇒団塊世代は小学生入学前が26.3%に比べ、団塊Jr世代は75.6%が入学前に初めてのアイスクリーム体験をしています。また、団塊世代は、母親や家族に、外出時に初めて食べさせてもらったというケースが目立ちました。それだけに、強い印象を残しているようです。(5P参照)

### アイスクリームをめぐる父母との思い出

#### ■団塊世代、団塊Jr世代ともに、親子の愛情をつなぐアイスクリーム

・父母とのアイスクリームにまつわる思い出について、自由記入式で回答してもらいました。(表3/表4)

⇒団塊世代、団塊Jr世代ともに、父親や母親がアイスクリームを買ってくれたこと自体が「いい思い出」になっています。アイスクリームは、日常の食品でありながら、その冷たさや甘さが、親子の愛情をつなぐ特別なものとして思い出されているようです。(6P参照)

#### <アイスクリームの初体験の時期>

団塊世代は小学校入学前は、わずか26.3%!  
しかし、団塊Jr世代は、小学校入学前までに75.6%が体験

(表3) <父親とのアイスクリームの思い出>

	団塊世代男性	団塊世代女性	団塊Jr世代男性	団塊Jr世代女性
1位	・買ってくれた/用意してくれた/くれた	・買ってくれた/用意してくれた/くれた	・買ってくれた/用意してくれた/くれた	・買ってくれた/用意してくれた/くれた
2位	・どこかで食べさせてくれた	・父が病気の時(病後)	・どこかで食べさせてくれた ・叱られた	・自分が買ったものを食べたがる/食べられた

(表4) <母親とのアイスクリームの思い出>

	団塊世代男性	団塊世代女性	団塊Jr世代男性	団塊Jr世代女性
1位	・買ってくれた/用意してくれた/くれた	・買ってくれた/用意してくれた/くれた	・買ってくれた/用意してくれた/くれた	・買ってくれた/用意してくれた/くれた
2位	・母が病気の時(病後)	・母が病気の時(病後) ・自分が病気の時(病後)	・自分が病気の時(病後)	・手作りしてくれた

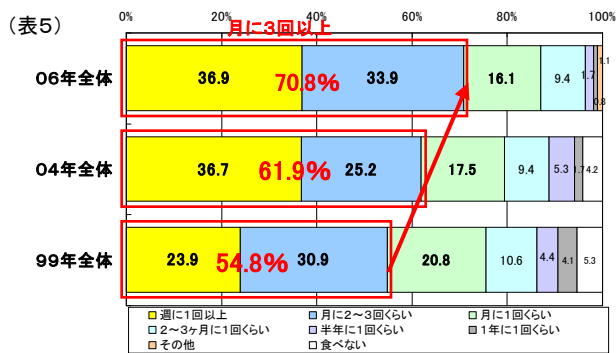
## アイスクリームの食用状況・変化

### アイスクリーム人気再浮上

◆今回の調査で過去の調査(99年度・04年度)と大きく変化したのが、アイスクリームを食べる頻度が上がっていることと、アイスクリームを食べる機会が増えたという人が多かったことです。06年は、アイスクリームがまた注目される存在になってきていることがわかります。

#### ■アイスクリームの摂食頻度は着実にアップ

99年、04年の調査と比較すると、アイスクリームの摂食頻度は上昇。月に2~3回くらい食べる、という人まで含めると、99年が54.8%、04年度が、61.9%であったのに対して、今回の調査では70.8%に上昇しています。(表5)



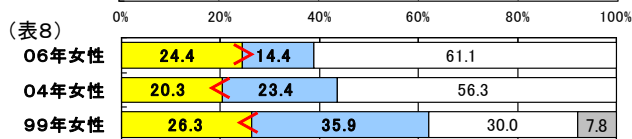
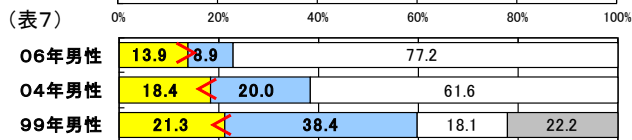
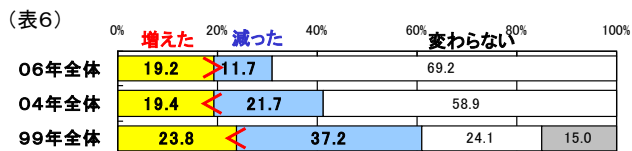
※99年、04年は「食べない」という選択肢があり

#### ■アイスクリームの摂食頻度が増えた人が増加

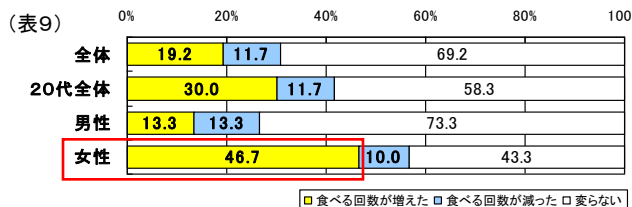
06年は、アイスクリームを食べる頻度は、「変わらない」とする人が69.2%。「減った」人が「増えた」人を上回った99年、04年度に比べ、「増えた」という人が「減った」という人を上回り、全体としては以前より摂食頻度が増えています。(表6)

特に、06年は女性の4人に1人が「食べる頻度が上がった」と答えているのが目立っており、女性に、アイスクリームファンが増えてきていることを示しています。(表8)

06年で平均よりも食べる機会が増えたのは、男性では高校生。女性では20代と30代。特に、20代の女性は、46.7%が「食べる頻度が増えた」と答えており、“20代女性はアイスクリーム好き”ということがわかります。(表9)



※99年は「以前からあまり食べない」という選択肢があり



※ 食べる回数が増えた □ 食べる回数が減った □ 変わらない

#### ■アイスクリームを食べる頻度が増えた理由は・

食べる機会が増えた理由の1位と2位は、“おいしいアイスクリームが増えた”と、“種類が豊富になった”こと。メーカーの努力と競争が、アイスクリームファンを増やすという好結果を生み出していると言えます。

2位を分け合っているのが、“家族と食べるが増えた”。4位が“子供が食べるようになった”と合わせて、アイスクリームを家族で楽しむケースが増えていることを示しています。

(表10)

(表10)

順位	食べる頻度が増えた理由	(%)
1位	・おいしいアイスクリームが増えた	13.0
2位	・種類が豊富になった	11.6
	・家族と食べるが増えた	11.6
4位	・子供が食べるようになった	7.2

※「増えた」と答えた人の自由回答より抽出

## アイスクリームのフレーバー嗜好

### バニラは不動の人気ナンバー1のフレーバー

◆99年調査から継続して1位の人気フレーバーは「バニラ」です。2位の「チョコレート」、3位の「抹茶」、4位の「ストロベリー」という順位も変わらずで、不動の人気を誇っています。また、「抹茶」「キャラメル」が女性の間で人気が高いことも見逃せません。

### ■「キャラメル」「抹茶」は女性に人気。「あずき」は50代に

アイスクリームの3大フレーバーは、「バニラ」、「チョコ」、「抹茶」。4大フレーバーとなると、「ストロベリー」が加わってきます。(表11)

6位人気までのフレーバーの中で、「キャラメル」と「抹茶」は女性の支持が男性より高く、特に「キャラメル」は、女性に高い人気となっています。(表12)

「あずき」の人気が高いのは50代なのが特徴的。50代にとっては、新しいフレーバーとして経験した初めての味が「あずき」ということもあり、今でも愛着があるようです。(表13)

### 【人気BEST5】

上位4位は不動

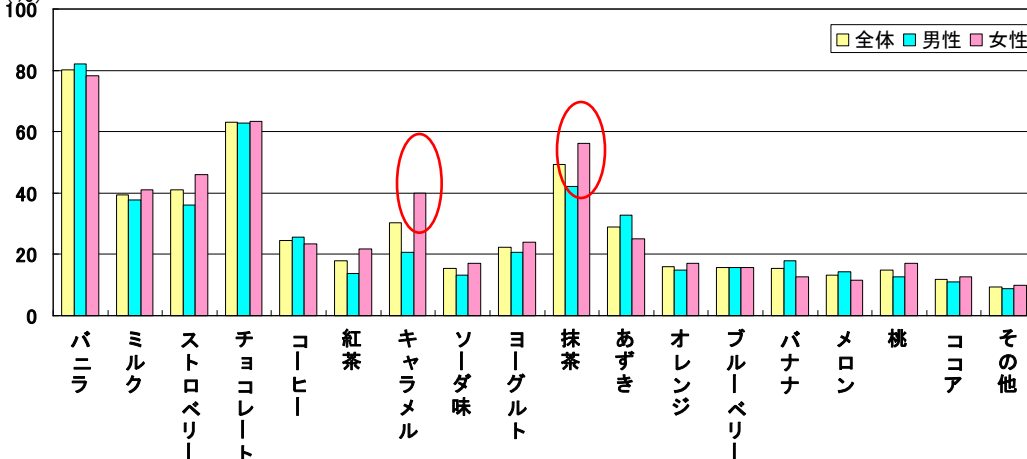
(表11)

	06年	(%)	04年	(%)	99年	(%)
1位	バニラ	80.3	バニラ	71.4	バニラ	67.7
2位	チョコレート	63.1	チョコレート	37.0	チョコレート	42.6
3位	抹茶	49.2	抹茶	34.9	抹茶	31.6
4位	ストロベリー	41.1	ストロベリー	27.1	ストロベリー	28.2
5位	ミルク	39.4	あずき	22.3	あずき	18.9

※99年は「ミルク」の選択肢なし

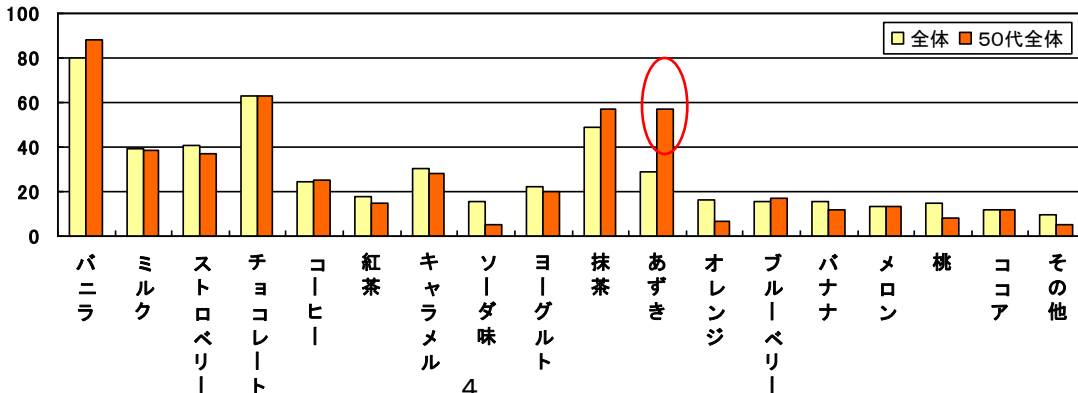
### 【女性に人気のフレーバー】

(表12) (%)



### 【50代に人気のフレーバー】

(表13) (%)





## 初めてのアイスクリーム体験

### 団塊世代、団塊Jr世代ともに、初めてのアイスクリームは、 家族との楽しく、おいしかった思い出

- ◆ 団塊世代、団塊Jr世代ともに、アイスクリームの初めての体験は、楽しい思い出と繋がっています。特に、まだアイスクリームが日常的ではなかった団塊世代には、強い印象を残しているようです。

### ■ 小学生になって初めてアイスクリーム体験をした団塊世代 生まれた時には、既に身近にアイスクリームのあった団塊Jr世代

すでに日常生活にアイスクリームが定着していた団塊Jr世代は、親だけではなく兄弟とアイスクリーム初体験をしている人も多いです。それに対して団塊世代は、母親か家族。家族という場合は、家族とのお出かけの時に初めて食べさせてもらったというケースが目立ちました。

初めて食べた場所は、団塊Jr世代が圧倒的に自宅であるのに対して、団塊(特に男性)世代は様々。近所の販売店や専門店、自転車の行商といった名前が出てくると同時に、デパートというケースも散見されました。

最初のアイスクリーム体験は、一つひとついい思い出として残っているようですが、団塊世代の方がより強い印象を残しており、特にソフトクリーム体験は強烈だったようです。

#### <アイスクリームの初体験の時期>

**団塊世代は小学校入学前は、わずか26.3%!**  
しかし、団塊Jr世代は、小学校入学前までに75.6%が体験

#### <アイスクリーム初体験の場所>

団塊世代の男性は、「販売店(菓子・駄菓子屋等)」「専門店」  
団塊世代の女性は、「自宅」「レストラン、喫茶店等」「自転車の販売」  
団塊Jr世代は、「自宅」が31.4%

#### <自由回答/抜粋>

##### <団塊世代>

- ・小学1年生ぐらい。暑い夏の日、町の駄菓子屋で母親に買ってもらって食べた。あの冷たさと甘さがなんとも言えず美味しかったのを今でも覚えている。(男性)
- ・小学校2年生ぐらい。夏休み、自転車で売りに来るアイスクリーム屋さんを見て母にねだって買ってもらった。甘くておいしい味に「口がとろける」とはこのことだと実感した。(女性)

##### <団塊Jr世代>

- ・5歳の頃。夏に親がスーパーマーケットで買って来て家で兄弟と一緒に食べた。その時、冷たくておいしいと感じた。(男性)
- ・幼稚園の頃。夏に庭で姉と食べて、とても美味しかったのを覚えている。(女性)



## アイスクリームをめぐる父母との思い出

### 団塊世代、団塊Jr世代ともに、アイスクリームは親子の愛情をつなぐもの

- ◆ 団塊世代、団塊Jr世代ともに、父母とのアイスクリームにまつわる思い出は多く、深いものがあります。そして、楽しく、うれしく、時には切ない想いと一緒に心に刻まれています。

### ■アイスクリームは、親から子へと世代をこえて伝わる「思い出作りデザート」

団塊世代、団塊Jr世代ともに、父親や母親がアイスクリームを買ってくれたこと自体が「いい思い出」になっています。アイスクリームが日常のものになったからか、団塊Jr世代の女性にとっては、母親が手作りしてくれたことも「いい思い出」に。

また、両世代とも、自分が子供の頃に、病気をした時に食べたアイスクリームに、「親の愛情」を感じ取っています。一方、親が病気の時の「親がアイスクリームを食べるシーン」は、団塊世代にとって、切なくも慈しみ深い「親への思い出」ともなっています。

アイスクリームは、日常の食品でありながら、その冷たさや甘さが、親子の愛情をつなぐ特別なものとして思い出されているようです。

(表14) <父親との思い出>

	団塊世代男性	団塊世代女性	団塊Jr世代男性	団塊Jr世代女性
1位	・買ってくれた／用意してくれた／くれた	・買ってくれた／用意してくれた／くれた	・買ってくれた／用意してくれた／くれた	・買ってくれた／用意してくれた／くれた
2位	・どこかで食べさせてくれた	・父が病気の時(病後)	・どこかで食べさせてくれた ・叱られた	・自分が買ったものを食べたがる／食べられた

#### <団塊世代>

・小3年の時、父が手に弁当箱のような箱を持って帰ってきた。開けてみると小倉アイスがいっぱい入っていた。弟と一緒に夢中でみんな食べてしまい、母にお腹をこわすと怒られた。(男性)

#### <団塊Jr世代>

・お祭りの時は決まって父に出店のソフトクリームを買ってもらっていた。それが楽しみで父に付いて行った。(女性)

(表15) <母親との思い出>

	団塊世代男性	団塊世代女性	団塊Jr世代男性	団塊Jr世代女性
1位	・買ってくれた／用意してくれた／くれた	・買ってくれた／用意してくれた／くれた	・買ってくれた／用意してくれた／くれた	・買ってくれた／用意してくれた／くれた
2位	・母が病気の時(病後)	・母が病気の時(病後) ・自分が病気の時(病後)	・自分が病気の時(病後)	・手作りしてくれた

#### <団塊世代>

・母は冷たい食べ物が食べられない身体だった。私が食べさせてもらってた時、母は何を食べてたのか思い出せない。思い出せないことが後悔。(女性)

#### <団塊Jr世代>

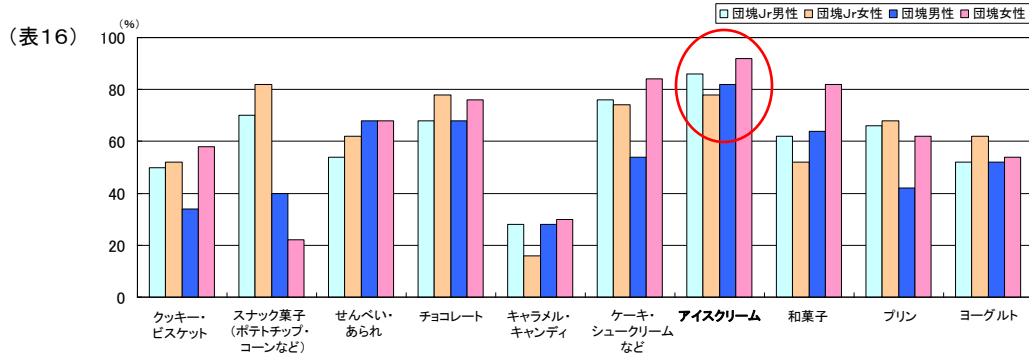
・小学校のときに目の手術で入院して目が見えない時に、母親に食べさせてもらったアイスクリームが妙に美味しかった。(男性)



## 好きなデザート

### 団塊世代、団塊Jr世代ともに、キング・オブ・デザートは、「アイスクリーム」

◆団塊世代、団塊Jr世代ともに、好きなデザートは「アイスクリーム」。世代を超えて強く支持されています。



### \* 自由回答欄から抜粋・団塊世代男性の、アイスクリームにまつわる思い出

#### アイスクリームに深く、強い思い出を持つ団塊世代男性

自由回答欄には、詳細でかつ印象深い「アイスクリームにまつわる思い出」の回答が多く寄せられました。人と人のあるアイスクリームが、人と人の中で展開されるドラマに、大きな役割を果たしてきたことがわかります。

その中のいくつかをご紹介します。

#### < 団塊世代・男性の自由回答／抜粋 >

##### 【家族と家で】

- ・幼稚園・小学校時代は父親が仕事の帰りにアイスをお土産に買ってくるのが楽しみで、少々遅くなくても家族で帰りを待っていた。  
当時の冷蔵庫には冷凍能力はなく、買ったものはドライアイスが溶けないうちに食べないといけなかったため、みんなで競争のように食べたのが懐かしい。

##### 【家族と旅先で】

- ・毎年夏には札幌の母の実家に帰省した。青函連絡船のデッキで父母と食べたアイスクリームは、潮の香りの中でのひとこまとして印象に残っている。

##### 【母親と】

- ・小学校5年生の頃、母親に連れられていったデパートの屋上で、ゴーカートで遊んだ後に、一角にあったコーナーでソフトクリームを食べた時、母親が偉大な人に見えた。

##### 【姉と】

- ・小学3年生。13歳年上の姉に誘われて、東京都内の遊園地に行き、デパートの屋上のレストランで、当時日本に上陸したばかりのソフトクリームを食べた。  
トロりとろける舌触りがなんともいえず新鮮な感触だった。「入れ物のカップまで食べられるのよ」と言われ更にびっくり。遊園地とアイスで忘れられない日になった。

##### 【妻と恋人同士だった時】

- ・結婚前に始めて家に招いた時、一口アイスクリームを手みやげに持ってきた彼女が初々しく見えて誇らしかった。現在も妻と一口アイスを食べるとその時のことを思い出す。

##### 【仲間と】

- ・高校2年の春。5~6人の男女の仲間との桜の下で食べた。人生がこれからだと思つて楽しかった。



- 【名称】 社団法人日本アイスクリーム協会  
Japan Ice Cream Association (略称: JICA)
- 【所在地】 〒102-0073 東京都千代田区九段北1丁目14番19号(乳業会館6階)  
Tel 03-3264-3104 / Fax 03-3230-1354  
ホームページURL: <http://www.icecream.or.jp/>
- 【設立】 昭和41年7月2日
- 【目的】 本会はアイスクリーム類および氷菓の衛生及び品質の向上並びに生産技術の改善をはかり、以って食生活の向上に寄与することを目的とする
- 【協会役員】 会長 古川 紘一(森永乳業株式会社代表取締役社長)  
副会長 鶴丸 健彦(明治乳業株式会社専務取締役)  
長岡 満夫(協同乳業株式会社代表取締役社長)  
江崎 勝久(江崎グリコ株式会社代表取締役社長)  
井上 秀樹(赤城乳業株式会社代表取締役社長)
- 【会員資格】 (1)正会員 本会員の目的に賛同して入会した個人または団体  
(2)賛助会員 本協会の事業を賛助するため入会した個人又は団体
- 【会員数】 207会員(平成17年12月末)
- 【事業内容】 1.アイスクリーム類及び氷菓の衛生及び品質の向上に関する事業  
2.アイスクリーム類及び氷菓の生産技術の改善に関する事業  
3.アイスクリーム類及び氷菓に関する知識の普及及び消費拡大に関する事業  
4.アイスクリーム類及び氷菓に関する統計調査、研究及び情報の提供に関する事業  
5.その他、本協会の目的を達成するために必要な事業

## ★「アイスクリームの日」について

明治2年、横浜馬車道で町田房蔵(まちだ・ふさぞう)が、わが国で初めてアイスクリームの製造・販売を行ったことを記念して、昭和39年、社団法人日本アイスクリーム協会が5月9日を『アイスクリームの日』に制定した。社団法人日本アイスクリーム協会では、毎年この『アイスクリームの日』にちなんで、アイスクリームのPR活動を行っている。

## アイスクリーム類及び氷菓の販売物量・金額

種 類	アイスクリーム	アイスマイルク	ラクトアイス	氷 菓	合 計	販売金額
年度	物量(KL)	物量(KL)	物量(KL)	物量(KL)	物量(KL)	億円
1995	197,600	106,400	271,300	293,600	868,900	3,879
1996	185,600	104,900	297,400	259,300	847,200	3,785
1997	187,800	118,200	278,400	239,100	823,500	3,750
1998	175,700	103,700	295,700	249,900	825,000	3,671
1999	178,200	104,000	297,700	245,800	825,700	3,585
2000	176,500	114,200	276,800	246,400	813,900	3,542
2001	167,900	102,400	284,800	231,000	786,200	3,432
2002	161,600	89,500	292,800	227,400	771,300	3,356
2003	165,790	102,930	285,450	197,440	751,610	3,322
2004	172,160	110,660	300,740	234,900	818,460	3,541

## アイスクリーム類・氷菓の販売量推移

